

<奨励賞 7団体>

■ 特定非営利活動法人 樹（いつき）（大阪）

「ななとこちゃん ふれあい広場」

<p>団体概要</p>	<p>認知症の知識を広く社会に啓発すると共に、認知症の方やその家族への支援及び地域社会における、人と人の繋がりを再構築する活動を行う事により、人間らしい生活を育めるネットワークづくりを推進することを目的として2009年5月に設立した。</p> <p>具体的活動は、複数の認知症対応型通所介護施設を大阪市城東区と福島区の二箇所で開催し、特定非営利活動として、『ななとこ庵』（居宅介護支援事業所）サロンを運営している。『ななとこ庵』において、地域住民の地域生活支援活動として、①老いの支度講座、②コンサート、③語らい塾、④子供あそび塾などを実施している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、子育て中のお母さんが居宅介護支援施設『ななとこ庵』で子育ての集いがないかという声があがったことから、子育て広場を『ななとこ庵』にて定期的に開催する中で具体化されたものである。</p> <p>『ななとこ庵』を子どもを育てる交流の場として使い、「いろいろな人の中で育っていく」「地域共生の中の子育て」を実現するため各種のイベントを開催し、認知症のデイサービス利用者やスタッフ、障がいを持つ人、近所の老人や、いろいろな人がいる中で嫌な体験を含め、経験することで子どもも親も育つことをめざしている。</p> <p>具体的には、子育て親子の交流の場の提供や、子育てに関する相談及び援助の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育て及び子育て支援に関する講習会の実施。など、『ななとこ庵』にていろいろな人とかわりながら自由に参加できるイベントを目的としている。</p>
<p>講評</p>	<p>子どもを育てる場として、認知症のお年寄りや、地域のサロンとして開放している「ななとこ庵」を使い、みんなで子育てをする、子育て支援をする広場とするこの事業は、地域とのつながりをつくりだし、子どもだけでなく、子育て中のお母さん・お父さんや、高齢のお年寄りや障がい者が、子どもを通じてまちづくりに繋がる活動へと発展することが期待できる点を評価した。</p> <p>地域づくりのため、まちづくりのため、この事業を通じて人の繋がりがつくられ、プログラムの充実が図られていくことを期待したい。</p>

■ 教育支援NPO 門真っ子 (大阪)
 児童の学習支援「門真っ子」

<p>団体概要</p>	<p>門真市域内で経済的・文化的に厳しい家庭状況に置かれ、また学習環境も恵まれていない子ども達に対して、地域と一緒に「子どもの学力を伸ばす」教育支援組織の必要性が論議される中、退職した教職員が中心となり2005年6月より学習会などの活動を開始し、2007年3月設立した。</p> <p>具体的な活動は、①子育て、学習に関する保護者への教育相談、②学習支援活動(学習会開催)、③学校教育サポート事業(授業者派遣・事業相談・補助)を行い、門真の子ども達の学習、教育支援するだけでなく、その親たちに対しても支援となる活動を実施している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は土曜日の午前中、門真市の施設(青少年活動センターおよび市立中学校の教室)の提供を受け、全門真市内の小学校3・4年生児童の希望者に国語と算数を中心とした学習会の開催を内容としている。</p> <p>学習会は常時20名ほどのボランティアにより一年を通して5つの教室で行い、単に、学力補充を目的とするのではなく、「解ることが楽しいこと」だと体得できる学習会の開催を目的としている。</p> <p>子ども達にとっては身近で、授業料を要しない学習会は、塾などに子どもを通わせることができない家庭が少なくない状況の中、有効な学習支援となる活動をめざしている。</p>
<p>講評</p>	<p>門真の子ども達の学力および生活実態を知る門真の教職員OBが中心となり、子ども達の学習支援を行う本事業は、学力格差から貧困の連鎖へ発展する、昨今の社会状況において、授業料を要しないことを含め、地域の教育課題を支援する事業として大きな意味をもつ。</p> <p>現在の退職した教職員OBの高齢化に対して、ボランティアとなる人材確保が必要であることなど、今後の継続した活動の必要性についても課題として認識されており、今回の受賞により、各分野における連携と協力の関係を一層強め、当事業が継続することを期待したい。</p>

■サタデイクラス運営委員会（大阪）

「母国で中学校を卒業して来日した子どもの高校受験に向けた教材開発」

<p>団体概要</p>	<p>教え子である外国出身の日本の中学校卒業生や、学校に在席しない外国の子どもたちから、もっと日本語を学びたいとの相談を受けた中学校教師たちが、2007年4月、複数のNPO団体の協力を得て「サタデイクラス」としてスタートした。</p> <p>具体的な活動としては、大阪市中央区で毎週土曜日の14:00～16:00に外国にルーツを持つ6才から18才の子ども達に、高校進学サポート・進路情報提供・悩みの相談・母語支援・クリスマス会等イベントを行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は親の仕事の関係で来日した外国の子どもたちが、母国で習得してきた力を伸ばせ、それぞれに合った高校に進学することを目標とし、短期間で、高校進学を目指す子供向けの指導及び情報提供のための基本的な教材を作成し、子どもへの対応をしやすいことをめざしている。</p> <p>具体的には、夏頃来日する子どもが多いことから、2月の受験までの半年間、週4回6ヶ月の24回で完結する、基礎的な日本語力、受験情報、入試制度、学校文化の理解を目指したテキストを開発することを内容としている。</p> <p>また、保護者が教育制度を理解できるように、学校制度・入試情報について多言語のテキストを作成し、子ども達の進学率100%、入学後の不登校・中退ゼロをめざしている。</p>
<p>講評</p>	<p>多民族共生人権教育センターと多文化共生センター大阪の賛同により2007年から、マンツーマンで子ども達に対して学習支援をおこなっているが、ほとんど予算の無いなかでの活動となっている。</p> <p>今回の事業で教材ができることで、母国で中学を卒業した子ども達に、よりよい学習支援をすることをめざす当事業の社会性を評価した。</p> <p>また、今回の助成によりテキストを作成することで、今後さらに改善・改良することができ、教材をよりよく発展させていくこともできるなど、専門家の協力を得ながら進めることで持続可能な事業となることを期待したい。</p>

■NPO法人 支援機器普及促進協会（京都）

「学習障がい児のためのタブレット端末学習アプリの開発」

<p>団体概要</p>	<p>障がい者や高齢者など、情報弱者に対して使いやすい IT 機器やソフトの企画・開発や普及促進事業をおこない、情報格差の無い社会を築くことを目的として、2011年7月に設立した。</p> <p>具体的には、障がい者へ iPhone・iPad の体験貸出しサービス、障がい者を持つ保護者や支援者向けへの活用研修会、障がい者を持つ保護者の自宅へ訪問しパソコンやインターネットの設定、障がい者向けのアプリケーションの開発・企画等を行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、特別支援教育においてタブレット端末を活用して、特別支援教育に携わる先生と協力しながら、障がいを持つ児童・生徒が安心して使えるアプリケーションを開発するプログラムの実施を内容としている。</p> <p>具体的には、既に特別支援学級の先生方や学習障がいを持つ人たちを支援するグループから多くの教材づくりに関するニーズが寄せられ、このニーズを元に特別支援教育で使えるアプリケーションを開発し配付する事業としている。</p> <p>開発に当たり、単独で解決しない問題が発生した場合、京都高度技術研究所内に当団体があるため、京都高度技術研究所情報部との連携が可能としている。</p>
<p>講評</p>	<p>タブレット端末を活用して、学習障がいを持つ子ども達に有用なアプリケーションを製作するこのプロジェクトは、アプリケーション制作に高度な IT スキルが必要となると想像するが、団体の所在が京都高度技術研究所内にあることから、京都高度技術研究所の連携も可能とのことであり、そのアプリケーションの完成の可能性は高いものがあるとして評価した。</p> <p>当助成により作成されたアプリケーションを、全国の学校などの教育機関で使用していくことによって、そのフィードバックから継続して改善をはかっていくことも期待でき、今後の展開が楽しみなプロジェクトである。</p>

■特定非営利活動法人 チャイルド・リソース・センター（大阪）
「社会的養護にある子どもの育ちを応援するプロジェクト」

<p>団体概要</p>	<p>カナダの児童虐待再発防止プログラムをもとに、虐待など子育てに困難をかかえる親と子どもたちに、虐待の再発防止・家族再統合を目的とした親子支援プログラムを提供し、子どもと家族の力を信じ引き出すことから、子どもと家族の成長発達に寄与することを目的に2007年10月設立した。</p> <p>具体的には、親子支援プログラムの開発・提供、親子支援研修講座の開催、講演・研修講師派遣、父親教育プログラムの開発・提供、親の学び場事業の開催どを実施している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、児童養護施設で生活する子ども達に、その将来に希望を持たせるため、また、施設でその子ども達を支える施設職員に対し、子どもの育ちに必要なことを伝え力づけるため、児童養護施設で育った現職の市長を児童養護施設に招き、2013年1月ごろまでに、講演やメッセージをいただくものである。</p> <p>市長という社会的地位を確立した草間氏と触れ合うことで、子ども達が希望ある未来を予感し、他施設の職員を含んだ多くの施設職員も草間氏から話しを聞くことで、子ども達の育ちに何が必要なのか考える機会とし、また、広く市民に向け講演会を行うことで、社会的養護にある子ども達への関心を呼びかけ、支援の輪が広がる波及効果も目的としている。</p>
<p>講評</p>	<p>施設で生活する子ども達が、希望ある未来を予感できるように、子ども達と同じ環境で育ち、市長となった草間氏を招き、子ども達一人ひとりと交流する本事業は、施設で生活する子ども達に、それぞれの未来に、大きな力を与えることが想像され草間市長と交流を図るとい、具体性を評価した。</p> <p>また、その講演を聴く施設の職員が講演により力づけられることにより、子供達に対してよい影響をもたらすことも想像できる。</p> <p>本プロジェクトが、子ども達と施設職員を力づけ、子どもたちの希望ある未来に繋がることを期待する。</p>

■ 和歌山県難病の子ども家族会（和歌山）

「輝け・病気の子どもたち！リゾートキャンプ」

<p>団体概要</p>	<p>和歌山県内に支部または連絡会がある小児難病患者・家族会が情報交換により互いに助け合い、啓発活動を通して、病気の子ども達が安心して暮らせる体制作りを目指して、2000年3月に和歌山難病子ども会として結成した。</p> <p>具体活動として、親の悩みの軽減や病気についての情報交換・学習会・交流会、を開催している。</p> <p>また、年1回、子ども達とボランティアが一緒になったリゾートキャンプを2002年から毎年実施している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、日頃外出もままならない子ども達だけでなく、介護・看護で疲れている親・兄弟・姉妹を、医療従事者・看護学生などのボランティアの協力のもと、日常生活から解放して心身をリフレッシュしてもらうためのプログラムである。</p> <p>具体的には、今回10年目と言うことで、普段参加している方に加え、日帰りのみも受け付けるなどし、多くの家族に参加を呼びかけ、2012年9月に和歌山マリーナシティ・ロイヤルパインズホテルでリゾートキャンプを実施する。</p> <p>企画内容は、親の学習会や、家族の交流会、コンサート、親の親睦会などとし、難病などで長期療養が必要な子ども達の遊ぶ姿を一般公開し、ラジオや地域広報誌を通じて、本事業の催しや学習会への参加を呼びかけることとしている。</p>
<p>講評</p>	<p>難病の子どもを持つ親・家族にとって、看護や介護の心配をしないで一日を過ごせることは限られる。本プログラムでの医療関係者や多数のボランティアの参加のもと実施されるリゾートキャンプは、親同士がその思いを打ち明け、悩みや心配ごとを軽減できる場となるだけでなく、日常生活から解放され心身をリフレッシュすることができることとなる。</p> <p>今回、10年目のキャンプを当助成にて応援することで、少しでも難病の子どもを持つ家族が、明日を生きる活力を得る手助けとなることを期待したい。</p>

■わが町にしなり子育てネット（大阪）

「にしなり☆あそぼパークPROJECT」

<p>団体概要</p>	<p>1995年に今宮中学校下で「あいりん子ども連絡会」そして鶴見橋中学校下で「西成地区教育ケース会議」の地域ネットワークの取組が進められていたところ、この取組を西成区全域のものへ広げ、西成区全ての子ども達と保護者の子育て、子育て支援のネットワークを広げる目的で、2000年5月に設立した。</p> <p>主な活動は、就学前の乳幼児の子育て家庭支援、18歳未満児童の子育て支援、子育て支援の情報収集と公開、子育てサークルの育成と支援、児童虐待防止活動、子育て講座などの開催などの活動を行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、児童福祉の世界において「忘れられた存在」である、小中学生の居場所、特に中学生の居場所に注目しようとする活動であり、もともと町にある「公園」と「地域住民」の力を引き出し、遊びをツールとした多世代のつながりをつくる活動により、子育て・子育てに優しいまちづくりをめざしている。</p> <p>具体的には、地域の公園を活用した子どもの遊びの環境作り事業や、子ども元気祭りの実施や、子ども同士・子どもと地域の人たちをつなげる「遊びリーダー」育成講座、「あそび広場」「遊びのリーダーの育成講座」の開催を内容としている。</p> <p>そして、この活動を広げていくなかで、地域住民自身でつながりを作り、子育て・子育てに優しい町にしなりをめざしている。</p>
<p>講評</p>	<p>子どもの子育て・子育てを地域のつながりを持って、住民自身で主体的に行うための仕掛け造りのプログラムであることを評価した。</p> <p>西成区に住む子ども達をつなぐため、区の公園を整備し、遊びのリーダーとなるボランティアを育て、西成区の多世代の住民が子どもを通じ人間関係、信頼関係を作り、地域の新しい福祉活動へ発展する効果を期待したい。</p>